

特集2

もっと知ってほしい! 下水道のこと ～地震対策編～

地震発生後も安全に衛生的なトイレが使用できるように、横浜市では災害用ハマッコトイレ(下水直結式仮設トイレ)の整備や下水道管、水再生センターの耐震化を進めています。

災害用ハマッコトイレは、令和6年度の上飯田中学校で、区内22カ所全ての地域防災拠点への整備が完了します。また、地域防災拠点の訓練を地域の皆さんとともに実施するなど、地震に備えた対策を行っています。

地域防災拠点

地震により自宅で生活できない人が、一定期間避難する場所

災害用ハマッコトイレとは?

災害時に断水や停電などで、水洗トイレが使用できなくなってしまう場合に、直接下水道管へ汚れた水を流すことができる仮設トイレ。学校のプール水などを活用し、災害時にもトイレが使えるよう各地域防災拠点に整備しています。



ハマッコトイレの詳細はこちら▶

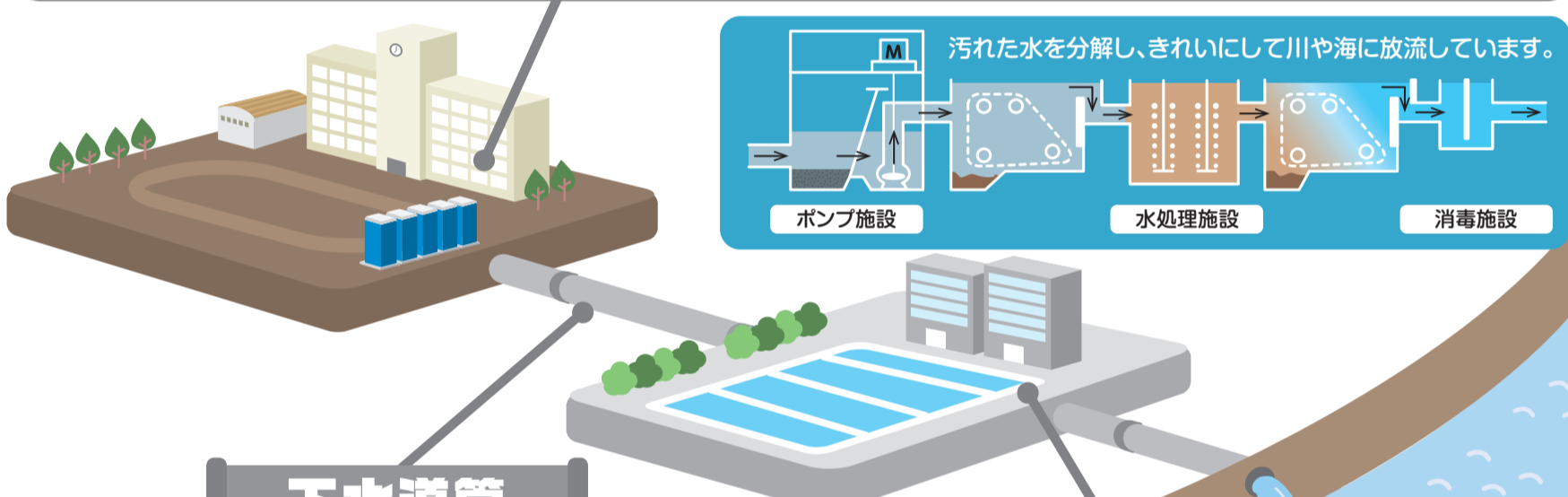


POINT

災害時は地域防災拠点の運営委員会の皆さんが災害用ハマッコトイレの組立・設置を行います。日頃から訓練を行い、円滑な避難生活が送れるよう準備を進めています。



地域防災拠点開設・運営訓練の様子▶



下水道管



泉土木事務所 丸山 副所長

災害時に汚れた水を地域防災拠点から水再生センターまで流せるように、下水道管の耐震化を進めています。



下水道管の耐震化は、古くなったり破損した管の取替や内面補強を行っています。また、取替後は液状化しにくい土で埋め戻しています。



横浜市では石川県志賀町の被災した下水道施設の復旧に向けた支援を行っています

◀能登半島地震にて液状化により浮上したマンホール(石川県志賀町)

水再生センター



西部水再生センター 森弘 センター長

区内で使用された汚れた水は、戸塚区と栄区の2カ所の水再生センターできれいになっています。大地震が発生しても下水処理ができるよう、各水再生センターの耐震化を進めています。



▲西部水再生センター・ポンプ施設

水再生センターでは、24時間365日下水処理を行いながら、汚れた水を汲み上げるポンプ施設や、きれいにした水を河川や海に放流する施設の補強を順次行っています。



▲詳細はこちら

※記事の内容は令和6年3月時点